

# 大阪府八尾市、第15代応神天皇、山本八幡宮の由来と鳥居

-水の街道(百景)、玉串川の桜並木、測定値解析、由来の四ヶ国語(日英韓中)用語-  
沢 勲\*・小山 博\*\*・中尾達夫\*\*\*・中岡 愛彦\*\*\*\*

(大阪経済法科大学\*・河内新聞社\*\*・関西大学校友会\*\*\*・読売新聞 OB\*\*\*\*)

**History of the Yamamoto Hachiman Shrine and its Torii Surveying,  
The 15th Emperor Ojin, Yao-City, OSAKA**

—Water Road-100Views, Cherry of Tamakushi River, Measurements Analysis,  
Multilingual Translation in Japanese-English-Korean-Chinese of History—  
Isao SAWA\*・Hiroshi KOYAMA\*\*・Tatsuo NAKAO\*\*\*・Naruhiko NAKAOKA\*\*\*\*

## ABSTRACT

Worshipped Gods is Hondawake-no-Mikoto. The 15th Emperor Ojin (270-310). Shrine Foundation is 1716 years. Emotions Gods is 1716, is Emotion the holy spirit than Iwashimizu-hatimanguu, it has been divided pine as guardian of Yamamoto-shinden. Total Head Shrine is Usa-hatiman-Shrine (Usashi, Ooitaken). Annual Festival is Homudawake-no-Mikoto, Hondawake-no-mikoto and the 15th Emperor Ojin. In other words, it is Yumiya-gami of Kouso-sin, Bujin and Noukousin, Hatiman-zin of Kaizin. Because the womb was in a "Three-Han-States expedition" legend of the Jinguu empress, Emperor Ojin is called the Emperor out of the womb.

The 15th Emperor Ojin was quick guide to the top hotels, deeply interested in the inside and outside of the political, educational encouragement, development of arable land, the construction of irrigation facilities, such as the development of transport routes were shattered heart.

The 15th Emperor Ojin received the Imperial Family, the veneration of the common people in with flood control, culture prosperity, promotion of industry, traffic development, easy delivery, God of God, toothache of God, the martial arts of the bow and arrow and long-lived God from ancient times.

Emperor Ōjin was coming the Yuutuki-kimi (Hata-clan of Ancestor) and Atiki (Han-clan of Ancestor) and Wani-hakase (Kawati-Humi-clan of Ancestor・Analects・Thousand Character Classic) et al by Kudara.

According to the Chronicles of Japan, arrival, naturalization's yearning virtue of emperor Ōjin many, culture and technology that has flowed from abroad comes into contact with the ancient Japanese culture, it became revolutionary civilization era

Shrine Pavilions is 11.59m and 13.20m in depth as a scale. The main shrine is settled in a main shrine. Setsusha is myouken shrine and is front 1.15m and 1.19m in depth for a scale. Torii is only one engine, and the height of the torii is 5.50m. The height of the Tourou is in the range of 1.47~ 3.16m. Half of the 10 group is in the fence around to the peripheral torii.

Others: The origin of Kawachi-Yamamoto begins with Yamato-River change in 1704. Large repair was carried out for all facilities except the main shrine from 1994 through 1997. A shrine office, a meeting place, the kagura hall was removed, and a building of reinforcing rod 4 stories was built at the precincts northwest corner.

キーワード: 八幡信仰、水の街道(百景)、玉串川の桜並木、由来の四ヶ国語(日英韓中)用語

**Keywords:** Hachiman Faith, Water Road-100Views, Cherry of Tamakushi River,

Multilingual Translation in Japanese-English-Korean-Chinese of History

[洞窟環境 NET 学会 紀要 7 号][Cave Environmental NET Society(CENS), Vol.7(2016), - pp]

## 1.はじめに

### 2.山本八幡宮関連の資料

- 2-1.応神天皇の配偶者と子息
- 2-2.山本地名の発生と変遷
- 2-3.八幡信仰
- 2-4.山本八幡宮の沿革
- 2-5. 山本八幡宮の祭神

### 3.山本八幡宮の由来と現在

- 3-1.山本八幡宮の和文由来と現在
- 3-2.山本八幡宮の英文由来と現在
- 3-3.山本八幡宮の韓文由来と現在
- 3-4.山本八幡宮の中文由来と現在

### 4.山本八幡宮の社殿

- 4-1.山本八幡宮の社殿の写真
- 4-2.山本八幡宮の社殿規模
- 4-3.山本八幡宮の摂社(皇大神社)

### 5.山本八幡宮の鳥居測定の写真と数値解析

- 5-1.山本八幡宮の鳥居の写真
- 5-2.山本八幡宮の鳥居の測量値

### 6.山本八幡宮の石灯籠の写真と数値解析

- 6-1.山本八幡宮の石灯籠の写真
- 6-2.山本八幡宮の石灯籠の測量値

## 7.おわりに

- 7-1.山本八幡宮の社殿建築
- 7-2.山本八幡宮の鳥居
- 7-3.山本八幡宮の石灯籠
- 7-4.山本八幡宮の経緯度
- 7-5. 奈良時代の陵墓
- 7-6.飛鳥/奈良時代の陵墓

## 謝辞

## 参考文献

### 別表 1.山本八幡宮の年表

## 1.はじめに

本研究は、地域の歴史を明らかにして、文化遺産学の資料を作成することを目的としている。本稿は、大阪府八尾市、古代河内国の物部氏地域である山本八幡宮で行った洞窟環境 NET 学会の総合学術調査(2014)報告の一部である。

山本八幡宮の詳細概要は、次のとおりである。主祭神は、誉田別尊(ほんだわけ)・第15代応神天皇(270-310年)である。

神社創建と勧請神は、享保元年(1716年)、石清水八幡宮より神霊を勧請し、山本新田の鎮守として分祀された。総本社は、宇佐八幡宮(大分県宇佐市)である。主な祭事は、品陀和氣命/誉田別命(ほんだわけ)応神天皇で同一神様で、武神(弓矢神)、(八幡神)農耕神、海の神ともいう。

鎮座地と標高は、大阪府八尾市山本町一丁目2-16と12mである。社殿は、正面11.59mと奥行き13.20mで、本殿・幣殿・拝殿は社殿の中に収まっている。摂社は、妙見宮であり、規模は正面1.15mと奥行き1.19mである。

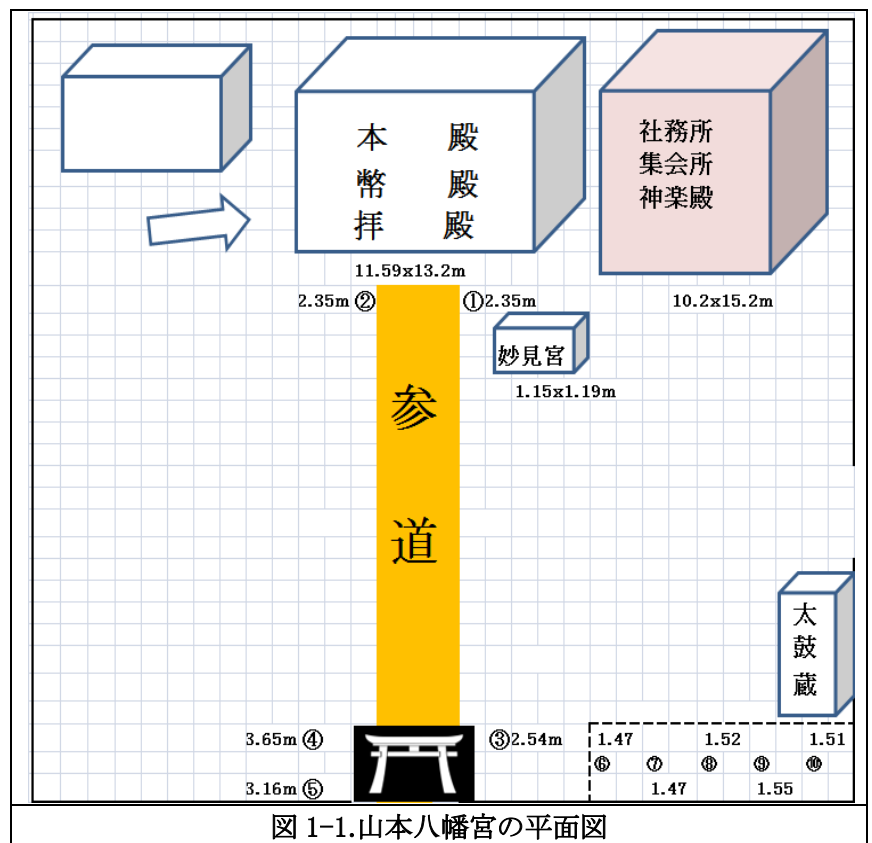


図 1-1.山本八幡宮の平面図

鳥居は、正面鳥居・1基であり、高さは5.50mである。灯籠は10基であるが、半分は鳥居の玉垣に置いている。灯籠の高さは1.47～3.16mである。その他に、河内山本の発祥は永元(1704)年大和川付け替えから始まる。1994年～1997年にかけて社殿を除いたすべての施設に大幅な改修が行われた。社務所・集会所・神楽殿は撤去され、境内北西角に鉄筋4階建てのビルが建てられた。

古代、八尾市の山本八幡宮の周辺は地元・物部氏一族と蘇我・聖徳太子の連合軍が仏教導入を巡って死闘を繰り広げた地である。仏教戦争は6世紀後半、崇仏派の蘇我氏と、排仏派の物部氏との間で行われた。物部氏は八尾市のこの周辺を本拠地とし、兵器製造を管掌する軍事氏族あり、仏教導入には強く反対した。住民発達史や環境変遷史との関わりで、神社がどのような位置づけや問題点を有しているかという検討が重要である。ゆえに、本稿は、古代国家の命運を決定づけた舞台としての山本八幡宮を多角的にとらえた実証研究の報告である。

さらに文献等によって神社及び周辺の歴史、伝承地の由来についても調査研究を行った。国内において、神社鳥居の関連資料に関する報告はこれまで皆無である。我々は、そうした歴史背景を抑えつつ山本八幡宮の社殿・拝殿、鳥居、石灯籠の詳細なデータ解析を行った。筆者らは鳥居の笠木(上端と下段)と貫(上端と下段)について回帰方程式によって勾配と決定係数を解明した。今後の研究課題として、神社の保全と環境問題などについて所見を整理したい。さらに、短時間の調査であったため、未解明の事項が少なくない。国際化時代に相応すべく、神社の由来については多国語(英語、韓国語)の翻訳を添付した。最後に、神社の年表と内容を纏めることができた。

## 2.山本八幡宮関連の資料

### 2-1.応神天皇の配偶者と子息

表 2-1.第 15 代応神天皇の配偶者と子息

	氏名	父	母	第1子	第2子	第3子
皇后	仲姫命(申日売命)3	品陀真若王	金田屋野姫命	16荒田皇女(木之荒田郎女)	3大雀命(仁徳天皇)	4根鳥皇子
妃1	高城入姫命(高木之入日売命)5、6			額田大中彦皇子	1大山守皇子	2去来真稚皇子(伊奢之真若命)
妃1				13大原皇女(妹大原郎女)	14、24 湍来田皇女(15高目郎女)	
妃2	弟姫命(弟日売命)5			18阿倍皇女	17 淡路御原皇女(阿具知能三腹郎女)	23紀之菟野皇女(木之菟野郎女)
				19三野皇女	滋原皇女	
妃3	宮主宅媛(宮主矢河枝比売)3	和珥日触使主(丸邇之比布礼能意富美)	不詳	5菟道稚郎子皇子(宇遲和紀郎子)	20八田皇女	雌鳥皇女(女鳥王)
妃4	小廝媛(宮主矢河枝比売の弟袁那弁の郎女)1			22菟道稚郎姫皇女(宇遲若郎女)		
妃5	息長真若中比売)1	河派仲彦王(昨俣長日子王)	不詳	6稚野毛二派皇子(若沼毛二俣王)		
妃6	糸媛(糸井比売)1	桜井の田部の連の祖・島垂根	不詳	9隼総別皇子(速総別命)		
妃7	日向泉長媛)3	不詳	不詳	8大葉枝皇子(大羽江王)	7小葉枝皇子(小羽江王)	草香幡媛皇女(10 樋日若郎女)
妃8	兄媛)0	吉備武彦王	不詳			
妃9	迦具漏比売命)5	須売伊呂大申日子王	柴野比売	25川原田郎女	26玉郎女	27忍坂大申比売
妃10	葛城之野伊呂売)1	不詳	不詳	28登富志郎女	11迦多遲王	
				12伊奢能麻和迦王		

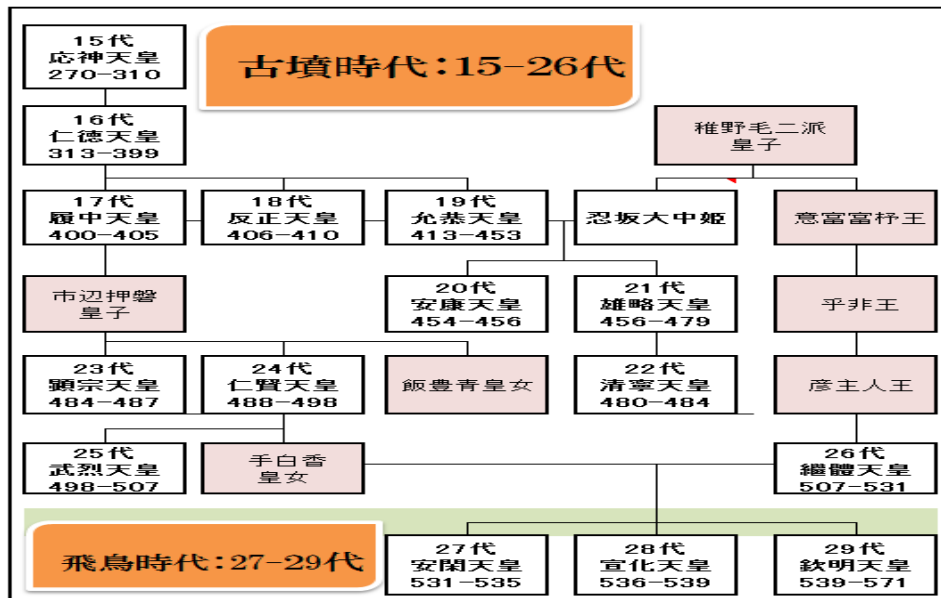
表 2-1 は、第 15 代応神天皇の配偶者と子息との関係である。応神天皇について要点を記述する。すなわち、①生没年は 200 年と 310 年、②異称は品陀和氣命。誉田別尊。③父は仲哀天皇。④母は気長足姫尊(神功皇后)。⑤在位は 270～310 年である。⑥皇居:大和国軽島之明宮。⑦陵名:恵我藻伏崗陵である。応神天皇の皇后は中姫命(父は品陀真若王)であり、3子が生まれているが次天皇は仁徳天皇である。応神天皇と額田大中彦皇子(母品陀真若王女高城入姫。仲姫姉。深川別始祖)間の子の順位を表 2-2 に表示した。

表 2-2. 応神天皇の皇后と妃の間に生まれた子の順位

①大山守皇子	②去来真稚皇子	③仁徳天皇	④根鳥皇子
⑤菟道稚郎子皇子	⑥稚渟毛二派皇子	⑦小葉枝皇子	⑧大葉枝皇子
⑨隼総別皇子	⑩幡日之若郎子(日本書紀无)	⑪迦多遲王(古事記)	⑫伊奢能麻和迦王
⑬大原皇女	⑭澗田皇女	⑮高目郎女	⑯荒田皇女
⑰淡路御原皇女	⑱阿部皇女	⑲三野郎女(日本書紀无)	⑳(仁徳天后)
21 雌鳥皇女	22 菟道稚郎姫皇女	23 紀之菟野皇女	24 澗来田皇女
25 川原田郎女	26 玉郎女(古事記)	27 忍坂大中比売(古事記)	28 登富志郎女(古事記)

仁徳天皇は応神天皇と皇后の間に第2子として生まれ、皇后は応神天皇と妃3番目の生まれた矢田皇女(ヤタルヒメ)である。矢田皇女は応神天皇の20子である。仁徳天皇の皇后である磐之媛命(イワノヒメノミコト)は、履中天皇・反正天皇・允恭天皇の母である。河内王朝は、四世紀の後半に成立した王朝である。本拠地は、現在の大阪市にある上町台地であるとされ、日本の前身である倭国の有力氏族の本拠もこの地域に点在している。この王朝の痕跡は、河内地域に分布する巨大な前方後円墳である。河内王朝については、日本書紀にある記載を含め諸説あるが、本稿では、西暦270年から531年の第15代応神天皇から第26代継体天皇までを整理してその歴史的背景と共に考察できる(表2-3)。第27代安閑天皇は、古墳時代ではなく、飛鳥時代における初代の天皇王である。

表 2-3. 古墳時代と飛鳥時代の皇室系図



それぞれの天皇の経歴と陵墓については、新羅・高句麗・百済・中国といったアジア地域との国際関係についても交流が認められている。

本稿では河内王朝の天皇として、第15代応神天皇(270-310)、第16代仁徳天皇(313-399)、第17代履中天皇(400-405)、第18代反正天皇(406-410)、第19代允恭天皇(412-453)、第20代安康天皇(454-456)、第21代雄略天皇(456-479)、第22代清寧天皇(480-484)、第23代額宗天皇(485-487)、第24代仁賢天皇(488-498)、第25代武烈天皇(489-507)、第26代継体天皇(507-531)を定義している。この王統を河内王朝と称している(表2-3)。第16代仁徳天皇(313-399)であり、孫は第17代履中天皇(400-405)、第18代反正天皇(406-410)の連続して3代の天皇を有している。



写真 2-1. 応神天皇の画像



写真 2-2. 応神天皇の陵古墳

## 2-2.山本地名の発生と変遷

河内山本の発生は宝永元年(1704)年の大和川付替にはじまる。古来大和川は大和盆地から亀ノ瀬を経て河内へ入り、石川を併せ玉串・長瀬の両河川を主流として河内平野に上流からの多量の土砂を堆積させながら北流し、寝屋川と出会いやがて淀川となり大阪湾へ注いでいた。このため河内平野は度々の洪水に悩まされたが、農民たちの願いは遂に江戸幕府を動かし、宝永元年の大和川付替工事となった。

それは柏原の石川との会流点から西へ新大和川を開削し、堺方向の大阪湾へ一気に水を流し去り洪水の憂いを断切るのに成功したのである。これにより大河であった玉串・長瀬の両河川と寝屋川筋の深野(フコ)池・新開池を埋立て、新田を拓くことが可能となった。山本八幡宮一帯の場所は玉串川(旧大和川)の河川敷に拓かれた新田である。山中庄兵衛正永(旧和泉国泉州の箱作村)氏と、大阪の商人・本山弥右衛門重英(加賀屋)氏の両人が請負って、旧河川敷の幅200m、長さ約3.5kmの新田が宝永2年(1705)以後着工され完成した。

地名は「山中」と「本山」両家の頭文字をとって「山本新田」と名付けられ、宝永5年(1708)の地検の際に正式に確定し、享保元年(1716)には鎮守の神として男山八幡宮から分霊が現在地に勧請され鎮座した。山本新田の地主は最初加賀屋本山家であった。しかし享保13年(1728)この地を抵当して住友家から銀300貫(全5000面)の融資を受けたが、享保9年の「大坂大火」が原因で返済できず、享保13年(1728)正月、泉屋住友吉左衛門の所有となった。以後昭和15年(1940)9月まで住友家が地主として約200余年間「山本」を所有した。

山本新田は天井(テンジョウ)川(河底が周囲の地面より高くなった川)であった旧大和川(玉串川)を垣立てて造られたため、東西に広がる水田地帯と異なり、南北に伸びる帯状の細長い水はけのよい台地状の農地となりもっぱら畑作地として用いられた。

時あたかも江戸中期、国内産業の発展から全国的に綿製品の需要多く「河内木綿」の栽培地へと変化したのである。この新田開発の工事により、玉串川は会見のように河幅は狭められ、東西に広がる水田地帯の灌漑用の井路(イジ)川となったが、新田の用水は畑地に掘られた井戸から汲み揚げねばならず、跳ね釣瓶(ツルベ)や風車が昭和初期ころまで、そこそこに立ち並び牧歌(ホッカ)的な風景が見られた。現在でも山本住宅地を掘ると1mたらずで奇麗な砂が現れ、更に深く掘ると伏流(フクリウ)水が湧き出てくる。

明治以後日本の綿工業は材料を外国産の良質低価格の綿に求めるようになり、国内産の綿作は壊滅する。山本新田も綿作地から蔬菜(ソサイ)栽培地へと変化していき、日本近代工業の一大中心地大阪へ新鮮な野菜類、麦、芋などを提供することになり、特に大根の産地として有名である。

大正末期に入り、大阪電気軌道株式会社(大軌・現近鉄)が八尾から愚智へ路線を伸ばす際、山本の管理社住友合資会社からこの地の一部を譲り受け、両者共にこの高燥(コウソウ)地を郊外高級住宅地にするべく、昭和初年より区画整理に着手する。大軌は昭和4年頃から、住友は昭和9(1934)年から宅地分譲を行い、宅地はそれぞれ一区画当たり100坪(330㎡)以上の広さを確保し、河内の水田地帯に忽然(コツゼン)とモダンな高級住宅が建ちはじめた。また、府立八尾高等女学校((山本高校)も誘致され、白亜の時計会を持つ校舎が聳え、八尾第二尋常小学校(山本小学校)もそれぞれ現在地に土地を無償提供されて建設をみた。

しかしながら鎮守の八幡社は構記する専任の神職はなく、明治期より河内二の宮-恩智神社の社家新海(ニイ)氏が兼任したが管理は思うにまかせなかった。昭和15年(1940)八幡社では玉串川沿いにあった池を埋立て、社務所の新築とわずかな補習を加えたが、それ以上の社殿・境内の整備は進まず年月はながれた。第二次世尽大戦後、大阪近郊は著しい発展を遂げ、山本近辺もその例に漏れず水田は埋め立てられ「中野」「万願寺」の地もそれぞれ「西山本」「東山木」と変更されるなど、山本の名称も広がりを見せ一大住宅地に変化していった。

その間、昭和31年(1956)世情の落ち着きと共に損壊(ソクカイ)著しい八幡社の新築が行われ、ここに「山本八幡宮」として生れ代わり、新海(ニイ)氏の分家が専任の宮司として神事を奉斎することになった。玉串川沿いに見られる桜並木は、そのころから氏子、地域住民の手によって植えられたもので、今では桜の名所として春には遠来の客を迎えるまでになっている。

住宅地の中央を南北に流れる玉串川は、近年八尾市の注目するところとなり水辺景観の美化の促進工事が進められると共にその一環として地域住民の交通の利便を考慮し、八幡宮は境内の玉串川沿いの一部を遊歩道として提供することになった。この計画に従って、平成5(1993)年から社務所・参集殿・太鼓蔵の新設を含む境内の幅な改修工事が着手され現在の姿に生れ変わったのである。

先に大阪府の選んだ大阪百景には「水の街道」として玉串河畔(カハ)も入っている。それを記念する碑が山木野球場脇の河畔に建てられ、山本小学校脇にも「親水施設」が造られ市民の憩いの場となっている。有名な地理学者の籠瀬(カガセ)良明氏は、その著書「地図の風景」(株そしえて発行)の中で次のように述べている。「私はこのあたりの大和川が好きで、大阪へいったときは、時間を割いて新川とともに、中で次のように述べている。小川に変わっている長瀬川や玉串川のへりを歩くことにしている。そして激しかったであろう300年前の水勢を思いめぐらすのである。」

ともあれ、山本住民は山本の地の発生と共に誕生した山本八幡宮を「心の故郷」として崇敬し、末永く神の加護を願い、この地発展にもける先人の苦勞に感謝の意を捧げると同時に、お互いの福を祈りたいものである。

### 2-3.八幡信仰

八幡神の信仰は、581年、古代、大分県宇佐の地に発祥した。我が国では最も由緒に広く普及した信仰である。宇佐では、神功皇后も祀られ、聖母・神母の信仰が広がり、民衆の強い支持を受けた。その発生は、古く、海神、鍛冶神、ヤハタ(地名)神などの説もあるが、応神天皇の御神格に包摂されていく。

八幡神は、古い時代から靈験のある神であるため、奈良時代の聖武天皇の大仏建立時や、国家の大専には、神威を発揮し、八幡大菩薩としても専崇を集めた。清和天皇から出た源氏の氏神となり、鎌倉に鶴岡八幡宮が建立された。養老4年(720)、古代九州で最大の内乱であった隼人の乱、藤原広嗣の乱の鎮圧に力のあった八幡神は、まず朝廷の守護神に位置づけられる。

天平勝宝4年(752)、聖武天皇、八幡神が中央に進出し、東大寺境内に手向山八幡宮が創建される。貞観元年(859)、清和天皇の、山城国(京都府)男山に勧請(カンジョウ)された。貞観2年(860)、都が京都に移った平安時代、王城鎮護の神として京都男山に石清水(イワシズ)八幡宮(紀氏)がそうけんされ、また東寺など有力寺院の鎮守としても八幡神が迎えられる。康平6年(1063)、源氏を棟梁とする武士たちには、武神として崇拝され、鎌倉鶴岡八幡宮をはじめ、全国各地に八幡宮が勧請されていく。このような八幡神の最大の特徴の一つに、神仏習合つまり仏教との融合がある。八幡神を[八幡大菩薩]と仏名で呼ぶのもその表れであり、仏像と同じように八幡神像を祀り、八幡曼荼羅や八幡縁起などがつくられたのも、仏教との融合の結果である。

### 2-4.山本八幡宮の沿革

山本八幡宮は享保元年(1716)、新村として成立した山本新田の開発者、山中正永、本山童英らによつて石清水八幡宮より神霊を勧請し、村の鎮守として分祀された。その後、享保13年(1728)本山氏から地主をついだ住友氏の尊崇(ソンスウ)と保護を受け近代に至ったが、明治30年代に政府による神社の統合合祀が強力に実施された際には、度々の廃社の憂き目を不思議にもかわし、存続する幸運に恵まれた。

昭和15年(1940)玉串川沿いの池を埋めたて社務所が新築されたが、その後、第二次世界大戦の影響もあり、境内・社殿の整備は思うにまかせず年月は流れていった。戦後ようやく世情も落ち着き、昭和31年(1956)損壊著しい社殿の復興が旧檀原神宮の古材を用いてなされ、旧山本新田住友会折の建物の移築もあり、ようやく復興も成り、境内の境内も整備されるに至った。



山本八幡宮の前に流れる河川は旧大和川(玉串川)で、「大阪まちなみ百景」、「大阪みどりの百選」に選ばれている。

旧大和川(玉串川)は、大阪府八尾市二俣で長瀬川から分流。八尾市の中央部を北上し、東大阪市玉串元町で第二寝屋川に合流する。河川の幅は約 5mで、河川の長さは南北 6.4Km で、川岸は石積みまたはブロックで護岸されている。昭和 40 年代に、住民の手により植えられた約千本の桜が立ち並び、春にみられる川と桜は咲き乱れる心は最高である。平成 5 年(1993)、山本の発展著しく八尾市から都市整備の一環として、境内の玉串川沿い遊歩道にする要請があり、これに協力すべく当該地を市へ割愛し、これを機会に社務所の移転(新築)・参集殿・太鼓蔵の新築、石鳥居・石玉垣・石燈籠などの新設、据え替えなど再度の整備が行われ、平成 9 年(1997)これが完成した。

## 2-5.山本八幡宮の祭神

応神天皇(第 15 代 天皇。諱(イナ)は誉田別尊(ホノタワケノミコ)。第 15 代仲哀天皇の皇子)である。神功皇后の「三韓遠征」伝説の際にはその胎内 にあったことから 胎中(タイチュウ)天皇とも称せられている。天皇は内外の政治に深く関心を寄せられ、文教の奨励、耕地の開発、灌漑設備の構築、交通路の整備などに心を砕かれ、それらの事績から、文化興隆、殖産興業、交通発展、安産、長寿の神として古来より皇室、庶民の崇敬を受け、我が国 で最も数多い祭神の一つとなっている。

応神時代は、日本書紀によると百済から弓周君(ユツキナキミ:泰氏の祖)や阿直岐(アチキ:漢氏の祖)、王仁博士「河内書(フミ)氏の祖」らのほか、応神天皇の徳を慕っての到来・帰化人も多く、海外から流入した文化・技術が古来の日本文化と接触して、画期的な文明暗代に入った。なお御陵は羽曳野市誉田にある。

### 祭事

1月 1日～3日 歳旦祭 厄除開運祈願・成就絵馬掛・神矢授与。	1月 15日 新年祭 商売繁昌祈願
2月 節分祭 厄除祈願	4月 15日 春祭 家内安全祈願
7月 14日・15日 夏季大祭 両日共夕刻より神楽奉納	10月 14日・15日 秋季大祭 両日共夕刻より神楽奉納
11月 七五三詣 お子達の無病息災祈願	12月 31日 除夜祭。毎月 1日・15日 月次祭。

### 祈願

初宮詣	安産祈願	厄除開運祈願	交通安全祈願	竣工祭
心願成就絵馬掛祈願	寿の祝(還暦・古稀・喜寿・米寿・白寿)	地鎮祭		上棟祭
家祓	厄除	七五三詣	学業成就	安産

## 3.山本八幡宮の由来と現在

### 3-1.山本八幡宮の和文由来と現在

①**祭神**：主祭神である第15代応神天皇(270-310)の諱(イナ)は誉田別尊(ホノタワケノミコ)、仲哀天皇の皇子である。応神天皇は神功皇后の「三韓遠征」伝説には、その胎内にあったことから 胎中(タイチュウ)天皇とも称せられる。天皇は、内外の政治に深く関心を寄せられ、文教の奨励、耕地の開発、灌漑設備の構築、交通路の整備などに心を砕かれた。その事績から、治山治水、文化興隆、殖産興業、交通発展、安産、弓矢の神・武道の神・歯痛の神とおよび長寿の神として古来より皇室、庶民の崇敬を受けた。

応神時代は、日本書紀によると百済から弓周君(ユツキナキミ:泰氏の祖)や阿直岐(アチキ:漢氏の祖)、王仁博士「河内書(フミ)氏の祖・論語と千字文」らを到来された。応神天皇の徳を慕っての到来・帰化人も多く、海外から流入した文化・技術が古来の日本文化と接触して、画期的な文明時代になった。

②**起源**：宝永元(1704)年、江戸時代、大和川の付け替えが行われた本流の一つであった玉串川は、現在のような川幅であった。その河川敷は細長い新田地帯であった。山本八幡宮一帯は、山中庄兵衛正永(泉州国箱作村)と本山弥右衛門重英(大坂平野町加賀屋)の二人が請負人になって、新田を開発した。山本とは、二人の頭文字を取って「山本」新田と呼ばれ、現在に引き継がれる。

③**伝承**：享保元年(1716)、山本八幡宮は、山本新田の開発者である山中正永氏と本山童英氏によって、江戸時代、京都にある石清水八幡宮より誉田別命(ホノタワケノミコ:応神天皇)神霊を勧請し、村の鎮守として分祀された。

④**沿革**：享保 13 年(1728)、本山氏から地主をついだ住友氏の尊崇(ソンスウ)と保護を受けた。明治 30 年代、政府による神社は、統合合祀が実施されたが、廃社の憂き目になり、存続の幸運に恵まれた。昭和 15 年(1940)、玉串川沿いの

池を埋め立て、社務所が新築された、第二次世界大戦の影響で、境内・社殿の整備は思うにいかず年月は流れた。

⑤**建築物**：昭和31(1956)、社殿が改築され、現在に至っている。本殿は社殿の中に収まっている。戦後ようやく世情も落ち着き、損壊著しい社殿の復興が旧樞原神宮の古材を用い、旧山本新田住友会折の建物の移築もあり、ようやく復興も成り、境内の境内も整備されるに至る。平成5年(1993)、山本の発展に著しく八尾市から都市整備の一環として、境内の玉串川沿い部介4m幅を遊歩道にする要請があり、これに協力すべく当該地を市へ割愛した。1994年～1997年にかけて社殿を除いたすべての施設に大幅な改修が行われた。社務所・集会所・神楽殿は撤去され、境内北西角に鉄筋4階建てのビルが建てられた。平成9年(1997)、神社は、これを機会に社務所の移転(新築)・参集殿・太鼓蔵の新築、石鳥居・石玉垣・石燈籠などの新設、据え替えなど再度の整備が行われて完成した。境内の東側には玉串川が流れ、川岸には桜並木が続いている。今も変わらぬ桜並木を見るにつけ、その頃の思い出が甦みかえられる。

表 3-1.大阪府八尾市、山本八幡宮の詳細資料

1	主祭神	誉田別尊(ホンタワケ)・第15代応神天皇(270-310年)
2	神社創建	享保元年(1716年)
3	勧請神	享保元年(1716年)、石清水八幡宮より神霊を勧請し、山本新田の鎮守として分祀された。
4	総本社	宇佐八幡宮(大分県宇佐市)
5	主な祭事	品陀和氣命/誉田別命・応神天皇。神や武神(弓矢神)、(八幡神)農耕神、海の神
6	宮司	新海(にいみ)哲史
7	鎮座地	581-0867 大阪府八尾市山本町一丁目2-16
8	電話FAX	電話:072-922-0789 Fax:072-924-0150
9	交通手段	近鉄大阪線河内山本駅下車北隣
10	位置	北緯34度37分42.6秒、東経135度37分11秒。
11	標高	12m
12	社殿	正面11.59mと奥行き13.20m。本殿は社殿の中に収まっている。
13	摂社	妙見宮。規模は正面1.15mと奥行き1.19m
14	鳥居	1基、高さは5.50m。
15	灯籠	10基の半分は鳥居の玉垣に置いている。灯籠の高さは1.47～3.16mである。
16	その他	河内山本の発祥は永元(1704)年大和川付け替えから始まる。 1994年～1997年にかけて社殿を除いたすべての施設に大幅な改修が行われた。 社務所・集会所・神楽殿は撤去され、境内北西角に鉄筋4階建てのビルが建てられた。

### 3-2.山本八幡宮英文由来と現在

**A) Enshrined deity:** True name of the 15th Emperor Ojin (270-310) who is worshipped is Hondawake-no-Mikoto, a prince of the Emperor Chuai. Emperor Ōjin is, in the "Three Han expedition" legend of Jingu Empress, also referred to as Taichuu emperor from the fact that it was in the womb. Emperor Ōjin is, is attracted deeply interested in the inside and outside of the political, educational encouragement, development of arable land, construction of irrigation equipment, such as the development of transport routes were shattered heart.

The Emperor Ojin received the Imperial Family, the veneration of the common people in flood control, culture prosperity, promotion of industry, traffic development, easy delivery, toothache of God, the martial arts of the bow and arrow and long-lived God from ancient times. Emperor Ōjin was coming the Yuutuki-kimi(Hata-clan of Ancestor)and Atiki(Han-clan of Ancestor) and Wani-hakase(Kawati-Humi-clan Ancestor・Analects・Thousand Character Classic) et al by Kudara. This country, arrivalnaturelization's yearning virtue of Emperor Ōjin many, culture and technology that has flowed from abroad is in contact with the ancient Japanese culture, it became a revolutionary civilization era.

**B) Origin:** Hōei yuan (1704) years, the Edo era, sacred Shinto tree branch River replacement was one of the mainstream that have been made of the Yamato was the current width of the river, such as.The



riverbed was elongated shinden zone. In the Yamamoto Hachiman Shrine whole area, two people of Yamanaka-Shouhyoueseiei and Motoyama-Yamigiemonshigehide became a contractor and developed a shinden. The name of Yamamoto takes the initial of two people (Yamanaka and Motoyama) and is called Yamamoto shinden and is succeeded at the present.

**C) Tradition:** Kyoho first year (1716), Yamamoto Hachiman Shrine is a developer of Yamamoto shinden. Yamanaka and Motoyama-like, the Edo era, is Emotion the Hondawake-no-mikoto is of Emperor Ōjin Holy Spirit than iwashimizu hachimangū in Kyoto, has been minute wait as the village of guardian.

**D) History:** 1728, Yamamoto Hachiman Shrine was under the protection and veneration (Sonsuu) of Sumitomo-like a landowner from Motoyama-like. In the Meiji 30(1897) generation, in the shrine by the government, unification enshrining together was carried out, but it became the misfortune of the abolished company and was endowed with good luck of the continuation. Because (1940), shrine filled the pond along the Tamakushi River, a shrine office was built, and a flow was done by the maintenance of the precincts, the main shrine under the influence of World War II.

**E) Recent Years :** In 1993, Yamamoto Hachiman Shrine, there was a request to do 4m in width of the part along Tamakushi River of the precincts on the promenade as part of city maintenance of the local development from Yao-city. In 1994-1997 years, significant improvement has been made in all the facilities except the shrine. A shrine office, a meeting place, the kagura hall was removed, and a building of reinforcing rod 4 stories was built at the precincts northwest corner. In 1997, the Shinto shrine laid new establishments such as new construction of move (new construction), Sanshuuden, Taikokura of Shamusho, Torii, Tamagaki, Tourou in 1997, and the second maintenance including the substitute was completed. The Tamakushi River flows through the east side of the precincts, and a row of cherry blossom trees leads to the river bank.

表 3-2.大阪府八尾市、山本八幡宮の詳細資料(英文)

1	Worshipped Gods	Hondawake-No-Mikoto/ The 15th Emperor Ojin (270-310)
2	Shrine Foundation	The Kyoho first year (1716).
3	Emotions Gods	Emotions Gods is 1716, is Emotion the Holy Spirit than Iwashimizu- hatimanguu, it has been divided pine as guardian of Yamamoto-shinden.
4	Total Head Shrine	Usa-hatiman-guu (usashi , Ooitaken,)
5	Annual Festival	Annual Festival is Homudawake-no-Mikoto,Hondawake-no-mikoto, Ouzin-tennou. In other words, it is Yumiya-gami of Kouso-sin, Bujin and Noukousin, Hatiman-zin of Kaizin.
6	Chief Priest	<b>Niimi Tetushi</b>
7	Enshrining Place	581-0867 :Yamamotocho, Yao-shi, Osaka1- 2-16
8	TEL/FAX	A telephone: 072-922-0789 Fax: 072-924-0150
9	Access	The getting off at Kintetsu Osaka Line Kawachi-Yamamoto Station north side
10	Latitude	For 34 degrees N 37 minutes 42.6 seconds, it is 135°37'11" E.
11	Altitude	12m
12	Shrine Pavilions	Shrine Pavilions is 11.59m and 13.20m in depth as a scale. The main shrine is settled in a main shrine.
13	Setsusha	Myouken shrine and is front 1.15m and 1.19m in depth for a scale.

14	Torii	Torii is only one engine, and the height of the torii is 5.50m.
15	Tourou	The height of the Tourou is in the range of 1.47 ~ 3.16m. Half of the 10 group is in the fence around to the peripheral torii.
16	Others	Others: The origin of Kawachi-Yamamoto begins with Yamato-River change in 1704. Large repair was carried out for all facilities except the main shrine from 1994 through 1997. A shrine office, a meeting place, the kagura hall was removed, and a building of reinforcing rod 4 stories was built at the precincts northwest corner.

### 3-3. 山本八幡宮(야마모토 하치만 신사)의 韓文由来と現在

**제신** : 주된 신으로 15 대 오진천황 (270-310)의 휘(이미나)는 혼다 다와케노 미코토, 추아이 천황의 황자이다. 오우진 천황은 진구황후의 「삼한 원정」 전설에는 그 태내에 있었던 것으로 태종 천황으로도 칭한다. 천황은 국내외 정치에 깊은 관심을 받아 문교격려, 경작지 개발, 용수로 시설 구축, 교통로의 정비 등에 마음을 썼다. 그 행적에서 치산치수, 문화융성, 식산흥업, 교통발전, 순산, 활과 화살의 신, 무술의 신, 치통의 신과 장수의 신으로서 예로부터 황실 서민들의 존경을 받았다.

오우진시대는 일본 서기에 의하면 백제에서 유우쯔키노 키미: 태씨의 선조와 아찌키: 한씨의 시조, 왕인박사 「가와치서」 씨의 시조·논어와 천자문 등을 전래했다. 오우진 천황의 덕을 기려, 귀화한 사람도 많아 해외에서 유입된 문화·기술이 고대 일본 문화와 접촉하여 획기적인 문명 시대가 되었다.

**기원** : 호우에이 원년 (1704) 에도시대, 야마토 강의 교체가 이루어 본류의 하나인 타마쿠시 강은 현재와 같은 강폭이었다. 그 하천 부지는 길쭉한 닛타 지대였다. 야마모토 하치만 신사 일대는 아마나카 쇼헤이에이 마사에(센슈국 하코쓰쿠리 마을)와 모토야마 와타루 우에몬히게후사(오사카 히라노초 카가야)의 두 사람이 청구인이 되어 닛타를 개발했다. 야마모토는 두 사람의 첫 글자를 따서 「야마모토」 닛타로 불러 현재까지 전해지고 있다.

**전승**: 교호 원년(1716), 야마모토 하치만 신사는 야마모토 닛타의 개발자인 아마나카 쇼헤이 씨와 모토야마 도우에씨에 의해 에도시대 교토의 이시 시미즈 하치만 신사로부터 혼다 와케노 미코토: 오우진 천황) 신령을 권청하고 마을의 수호신으로 분사되었다.

**연혁**: 교우호 13 년 (1728), 모토야마 씨로부터 지주를 이은 스미토모 씨의 존경과 보호를 받았다. 메이지 30 년대 정부로부터 신사는, 통합 합사가 실시, 폐사의 쓰라림을 겪었으나 극적으로 존속할 수 있는 행운을 얻었다. 쇼와 15 년(1940) 타마쿠시 강가의 연못을 매립, 사무소가 신축되었으나 제 2 차 세계 대전의 영향으로 경내·신전의 정비는 생각처럼 안되고 세월이 흘렀다.

**신전 구조물**: 쇼와31년(1956) 신전이 재건축되어 현재에 이르고 있다. 본전은 신전 안에 들어가 있다. 전후 마침내 세상정세도 안정되고 파괴된 신전의 부흥을 구 카시하라 신사의 자재를 이용해 구 야마모토 닛타 스미토모카이파 건물의 이축도 하고 마침내 회복되어 신사의 경내도 정비되기에 이른다. 헤이세이5년(1993), 야마모토의 발전에 즈음해 야오시로부터 도시 정비의 일환으로 경내의 카시하라 강가 부근 4m 폭을 산책로 만들자는 요청이 있어 이에 협조하기 위해 해당 지역을 시에 할애했다. 1994년~1997년에 걸쳐 신전을 제외한 모든 시설에 대폭적인 개조가 이루어졌다. 사무소·집회소·신락전은 철거되어 경내 북서쪽 모서리에 철근 4층 건물이 지어졌다. 헤이세이 9년(1997), 신사는 이를 기회로 사무소의 이전(신축)·참배전·타이코 창고의 신축, 이시토리이·돌담·석등 등의 신설 등 다시 정비가 이루어져 완성했다. 경내의 동쪽에는 타마쿠지 강이 흐르고, 강변에는 벚꽃 나무가 많이 있다. 지금도 변함없는 벚꽃 길을 볼 때는 그 시절의 추억이 연상되곤 한다.

表 3-3. 大阪府八尾市、山本八幡宮の詳細資料(韓文)

1	주제신	혼다와케·제 15 대 오우진 천황 ( 270-310 년 )
2	신사창건	교우호 원년 ( 1716 년 )
3	권청신	교우호 원년 ( 1716 년 ) , 이시시미즈 하치만 신사로부터 신령을 권청해, 야마모토 닛타의 수호신으로 분사되었다.
4	총본사	우사 하치만 신사(오이타현 우사시)
5	주된제사	혼다와케노-미코토/혼다와케노-미코토·오우진 천황. 신이나 무신 ( 유미야 신 ) , 하치만 신사, 농사 신, 바다 신
6	궁 사	新海 ( にいみ ) 哲史
7	진좌지	581-0867 오사카후 야오시 야무토토 일초메 2-16
8	전화·	전화 : 072-922 - 0789 Fax : 072-924-0150

	F A X	
9	교통수단	킨테츠 오사카선 가와치 야마모토역 하차 복위
10	위 치	북위 34 도 37 분 42.6 초, 동경 135 도 37 분 11 초
11	표 고	12m
12	사 전	정면 11.59m 와 깊이 13.20m. 본전은 신전 안에 들어가 있다.
13	섭 전	묘켄 신사. 규모는 정면 1.15m 와 깊이 1.19m
14	토리이	1 기, 높이는 5.50m
15	석 등	10 기의 반은 토리이의 타마가키에 두고 있다. 등불 높이 1.47 ~ 3.16m 이다.
16	기 타	가와치 야마모토의 발상은 에이겐(1704) 야마토 강 확장공사에서 시작한다. 1994 년~1997 년에 걸쳐 신전을 제외한 모든 시설에 대폭적인 개조가 이루어졌다. 사무소·집회소·신락전은 철거되어 경내 북서쪽 모서리에 철근 4 층 건물이 지어졌다.

### 3-4. 山本八幡宮の中文由来と現在

①祭神: 主祭神第15代应神天皇(270-310年)的讳为は誉田别尊, 是仲哀天皇的皇子。在神功皇后的“三韩远征”传说中, 应神天皇在神功皇后的胎内, 故亦称胎中天皇。应神天皇非常关心内外的政治, 醉心于文教的奖励、耕地的开发、灌溉设备的构筑、交通网的修建等。根据他的事迹, 作为治山治水、文化兴隆、振兴产业、交通发展、平安分娩、弓矢的神, 武道之神, 牙痛镇痛之神及长寿之神, 从古代起就受到了皇室、庶民的崇敬。

据《日本书纪》, 应神时代弓周君(泰氏之祖)、阿直岐(汉氏之祖)、王仁博士(河内书氏之祖·论语与千字文)从百济渡海而来。敬慕应神天皇的功德而到来、归化的人很多, 从海外流入的文化、技术与古日本文化相接触, 成为了划时代的文明时代。

②起源: 在江户时代的宝永元(1704)年, 进行了大和川改道的干流之一的玉串川, 其宽度曾与现在的河宽相同。其河岸开阔地曾是细长的新开垦的水田地帯。对山本八幡宫一带, 由山中庄兵卫正永(泉州国箱作村)与本山弥右卫门重英(大坂平野町加贺屋)两人承包开垦了新的水田。山本即是取了两个人姓名的头一个字而成的, 新水田被称为“山本”新田至今。

③传承: 享保元(1716)年, 由山本新田的开垦人山中正永氏与本山童英氏, 从江户时代位于京都的石清水八幡宫将誉田别命(应神天皇)的神灵劝请至山本八幡宫, 作为村子的镇守之神进行了分祀。

④沿革: 享保13(1728)年, 受到了从本山氏继承了地主的住友氏的尊崇与保护。明治30年代, 由政府实施了神社的统合合祀, 该神社也曾有过被废的忧虑, 幸运的是得以存续。昭和15(1940)年, 填埋了玉串川沿岸的水池, 新建了社务所。但受到第二次世界大战的影响, 境内、神殿整修未能如计划得以实施, 只有岁月流逝而去。

⑤神殿的建筑物: 昭和31(1956)年, 对神殿进行了改建而至今。正殿位于神殿之内。战后社会总算安定下来, 损坏严重的神殿的复兴使用了原榿原神宫的旧材料, 加上移建原山本新田住友会所的建筑物, 终于使得复兴成功, 境内也得以整修。平成5(1993)年, 山本有了显著的发展, 作为城市整修的一环, 八尾市请求拟将境内沿玉串川部分的4米宽之地作为人行道。响应此请求, 将该地割爱给了八尾市。1994年~1997年, 对除了神殿的所有设施进行了大幅度的改修。拆除了社务所、集会所及神乐殿, 在境内的西北角新建了4层的钢筋混凝土大楼。平成9(1997)年, 神社利用此机会, 进行并完成了社务所的迁移(新建), 参集殿、太鼓藏的新建, 石鸟居、石墙、石灯笼等的新设、迁移等的重新整修。在境内的东侧有玉串川流过, 河岸有连绵的樱花树。望着今天也依然如故的连绵的樱花树, 唤醒着当时的思绪。

表 3-4. 大阪府八尾市、山本八幡宮の詳細資料(中文)

1	主祭神	誉田别尊—第15代应神天皇(270-310年)。
2	神社创建	享保元年(1716年)。
3	劝请神	享保元年(1716年), 从石清水八幡宫劝请了神灵, 作为山本新田的镇守神而分祀。
4	总本社	宇佐八幡宫(大分县宇佐市)。
5	主要祭事	品陀和气命/誉田别命—应神天皇。武道之神(弓矢神), (八幡神)农耕神, 海之神。
6	宫司	新海哲史。
7	供奉地	邮编: 581-0867, 大阪府八尾市山本町一丁目 2-16

8	电话, 传真	电话: 072-922-0789, 传真: 072-924-0150。
9	交通	近铁大阪线河内山本站下车北隣。
10	位置	北纬 34 度 37 分 42.6 秒, 东经 135 度 37 分 11 秒。
11	标高	12 米。
12	神殿	正面宽 11.59 米, 进深 13.20 米。正殿位于神殿之内。
13	摄社	妙见宫。规模为正面宽 1.15 米, 进深 1.19 米。
14	鸟居	1 座, 高 5.50 米。
15	灯笼	10 座的一半放置在鸟居的玉垣上。灯笼高 1.47~3.16 米。
16	其他	河内山本的发祥始于永元(1704)年的大和川改道。 1994 年~1997 年, 对除了神殿以外的所有设施进行了大幅度的改修。 拆除了社务所、集会所及神乐殿, 在境内西北角建起了 4 层的钢筋水泥大楼。

## 4. 山本八幡宮の社殿

### 4-1. 山本八幡宮の社殿の写真

本殿は、神霊を宿した神体を安置する社殿のことで、神殿ともいう。本殿は人が内部に入ることを想定していないため、拝殿より小さいことが多い。内部には神体(鏡など)がおさめられる。内陣と外陣に分かれている場合は内陣に神体が納められ、外陣は献饌・奉幣の場として使われる。拝殿(ハイデン)は、祭祀・拝礼を行なうための社殿で、祭祀の時に神職などが着座するところでもあり、吹き抜けとされる場合が多い。

通常、神社を訪れた際に見るのはこの拝殿で、一般の参拝は拝殿の手前で拍手を打って行なう。幣殿は、祭儀を行い、幣帛を奉る社殿である。本殿と拝殿との間に位置し、両者をつなぐような構造になっているのが特徴で、中殿ともいう。幣殿が独立していることもある。また、拝殿と一体になっている幣殿もある。幣殿がない神社もある。神社建築(本殿)の特徴として①.屋根に妻を持つこと、②床を高く張ること、③瓦を用いないこと、④土壁を用いないこと、⑤装飾の質素なことであることが指摘される。本殿の建築様式の大分類は、平入形式、妻入形式と複合社殿形式である。平入形式の中分類は、神明造、流造と入母屋造である。妻入形式の中分類は春日造のみである。複合社殿形式の中分類は権現造、浅間造、尾張造と水分造の4造りである。流造の小分類は、両流造、八幡造、穂高造、香椎造、織田造と近江造の6造りである。入母屋造の小分類は、日吉造、吉備津造と祇園造の3造りである。春日造の小分類は熊野造、大社造、住吉造、大鳥造、隠岐造、中山造、切妻造と入母屋造の8造りである。拝殿の建築様式は、平入拝殿、妻入拝殿、割拝殿と特異な拝殿の4様式である。



写真 4-1. 山本八幡宮の拝殿と奥の本殿

写真 4-2. 山本八幡宮本殿と鯉木

写真 4-1 は山本八幡宮の拝殿と奥の本殿である。写真 4-2 は山本八幡宮の本殿と鯉木である。

写真 4-3 山本八幡宮の拝殿と社殿の天井地下地構成材山本八幡宮の本殿鯉木である。



写真 4-3 山本八幡宮の拝殿と社殿の天井下地構成材



写真 4-4.山本八幡宮の玉垣と社殿の側面



写真 4-5. 宮の社殿と神木



写真 4-6.社殿正面の社殿と社務所

神社名	間口(m)	奥行き(m)	面積(m <sup>2</sup> )
山本八幡宮本殿	11.59	4.33	50.18
山本八幡宮幣殿	11.59	4.33	50.18
山本八幡宮拝殿	11.59	4.33	50.18

山本八幡宮における、社殿は幣殿より0.1m高く。拝殿は参拝者のため椅子が置かれている。奥行きは約3等のようなのである。

表 4-1.山本八幡宮の社殿の計測値

写真 4-4.山本八幡宮の玉垣と社殿の側面である。写真 4-5 は、山本八幡宮の社殿と神木である。写真 4-6 は山本八幡宮の社殿と社務所・集会所・神楽殿である。社務所・集会所・神楽殿は撤去され、境内北西角に鉄筋 4階建てのビルが建てられた近代的な建築物である。

#### 4-2.山本八幡宮の社殿規模

表 4-1 は、山本八幡宮における社殿の計測値である。本殿、幣殿と拝殿は内部では奥行きが均等に、約 3 等のように見える。拝殿は参拝者用の椅子が並んでいる。本殿の高さは幣殿より 0.1mほど高くみられる。のため椅子が置かれている。奥行きは約 3 等のようなのである。間口は 11.59m、奥行きは 4.33 であり、面積は 50.18 平方mである。摂社の妙見宮の規模は正面 1.15mであり、奥行きは 1.19mである。面積は 1.37 平方mである。

#### 4-3.山本八幡宮の妙見宮(摂社)



写真 4-5. 山本八幡宮の妙見宮摂社の正面と奥面

摂社：妙見宮(ミョウケン)

祭神：北辰(ホクシン)明神(北極星を神格化されたものである)

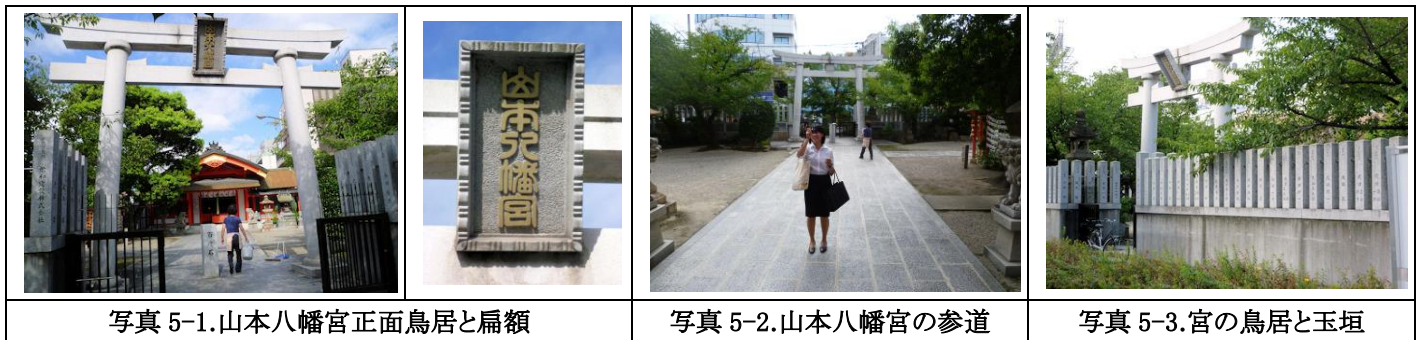
我が国では 造化(天地・自然を造り育てる)の三神がある。すなわち、天御中主神(アマノナカヌシの神)、高皇産霊神(タカムスビノカミ)および 神皇産霊神(カミムスビノカミ)がこれに当たる。平安時代、皇室・民間で深く信仰され、以後、妙見菩薩としても知られている。国土の守護、災害の滅除、長寿延命に霊験がある。住友家の守護神であった。

## 5.山本八幡宮の鳥居測量と写真と数値解析

神社鳥居の区分と構造には、鳥居とは神霊として鳥を招く意味である。構造は2本柱に2本横木(笠木と貫)から構成。神明系と明神系の鳥居は、笠木の下に島木が無と有(装飾)の違い、笠木の反りの有(神明系)と無(明神系)による。明神系鳥居の貫には、出る(中山鳥居を除く)と出ない(中山鳥居)のが区分できる。神明系鳥居の貫には、出る(鹿島鳥居を除く)と出ない(鹿島鳥居)のが区分できる。神明系鳥居は次の4タイプがある。

山本八幡宮の鳥居には、稲荷系神社と明神系鳥居がある。稲荷(いなり:台輪(だいわ)形)である。稲荷(いなり:台輪(だいわ))は、島木の下に構造的補強した大輪形。柱の上部、島木と接する箇所に台輪がある特徴とし、台輪鳥居と呼ぶ。明神系鳥居の系列と構造と類似鳥居との関係を次のように要約できる。柱は丸柱・内傾斜、反り増しは有、笠木は角型曲線、島木は角型曲線、台輪は有、楔は有、額束は有、貫は角型外側、根巻・臺座は無、亀腹・饅頭は有、構造の笠木・島木は斜め切断されている。

### 5-1.山本八幡宮の鳥居の写真



**写真 5-1** は山本八幡宮の明神系鳥居正面と扁額である。**写真 5-2** は山本八幡宮の中央部にある広い参道である。**写真 5-3** は玉串川の河川に沿っての建立した山本八幡宮の鳥居と玉垣である。**写真 5-4** は、山本八幡宮の内側から撮影した鳥居であり、奥には素晴らしい建物が聳えている。**写真 5-5** は、山本八幡宮の南側にある玉垣にある。大学と学園の記念碑とは、大阪経済法科大学と学校法人大阪経済法律学園である。大阪経済法律学園の創立は1970年で、45周年の記念すべき年でもある。大阪経済法科大学では、経営学科を増設し、2016年には国際学部を増設することになり、八尾市の歴史や文化の発展に起用している。**写真 5-5** は上空から撮影した山本八幡宮宮の森である。



### 5-2.山本八幡宮の鳥居の測量値

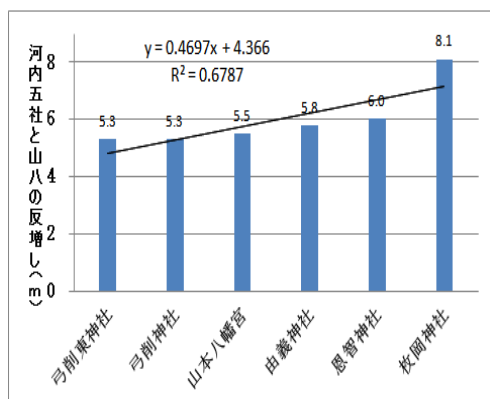
表 5-1 は、山本八幡宮の鳥居測量である。神社の鳥居に対して、柱断面(円周と直径)、柱内側の幅(内側間と中心間)、

貫高さ(下点と上点)、笠木高さ(下点と上点と頂点)を区分して計測資料を表示している。

表 5-1.河内国五社と山本八幡宮の鳥居測量値(m)

	正面鳥居	柱直径	柱間距離	貫下点	貫上点	笠木下点	笠木上点	反増し
1	枚岡神社	0.76	5.19	5.24	6.14	6.93	7.21	8.11
2	恩智神社	0.49	4.02	4.32	4.69	5.36	5.66	6.03
3	弓削東神社	0.48	2.51	2.61	2.81	3.18	3.37	5.31
4	弓削神社	0.48	3.72	3.96	4.28	4.77	5.01	5.31
5	由義神社	0.86	3.72	4.10	4.44	5.00	5.46	5.79
6	山本八幡宮	0.47	3.75	4.35	4.75	5.21	5.41	5.51
	MAX	0.86	5.19	5.24	6.14	6.93	7.21	8.11
	AVG	0.59	3.82	4.10	4.52	5.08	5.35	6.11
	MIN	0.47	2.51	2.61	2.81	3.18	3.37	5.31

図 5-1.河内五社と山本八幡宮の反増し(m)



柱間距離では、最大値は枚岡神社(519m)、平均値は3.82mと最小値は弓削東神社(2.61m)である。  
 貫上の高さでは、最大値は枚岡神社(6.14m)、平均値は4.52mと最小値は弓削東神社(2.81m)である。  
 笠木上の高さでは、最大値は枚岡神社(7.21m)、平均値は5.35mと最小値は弓削東神社(3.37m)である。  
 反り増しの高さでは、最大値は枚岡神社(8.11m)、平均値は6.11mと最小値は弓削東神社(5.31m)である。  
 山本八幡宮の鳥居から他の神社との測量値について解析を行った。  
 山本八幡宮の柱間距離3.75mは、平均値4.10mより低い、弓削東神社と弓削神社3.72mより高い値である。  
 山本八幡宮の貫下の高さ4.35mは、平均値4.10mより高く、弓削東神社2.61mと弓削神社3.96mより高い値である。  
 山本八幡宮の貫上の高さ4.75mは、平均値4.52mより低い、弓削東神社2.81と弓削神社4.28mより高い値である。  
 山本八幡宮の笠木下の高さ5.21mは、平均値5.08mより高く、弓削東神社3.18と弓削神社4.77mより高い値である。  
 山本八幡宮の笠木上の高さ5.41mは、平均値5.35mより高く、弓削東神社3.37と弓削神社5.01mより高い値である。  
**表5-1**は、河内国五神社とは、枚岡神社、恩智神社、弓削東神社、弓削神社、由義神社でありおよび山本八幡宮である。  
 ここでは、各神社の正面鳥居の測量値である。**図5-1**は、河内国五大神社と反増しとの関係図を表示した。河内国五大神社と反増しの高さの関係を究明するため考察方法として、次のような2変数(XとY)の直線回帰方程式を与えられる**(式5-1)**。ここで、Xは神社名で、Yは神社の反増しの高さである。決定係数はR<sup>2</sup>である。

$$Y(\text{神社の反増しの高さ}) = 0.4697X + 4.366 \quad \dots\dots \text{決定係数}(R^2 = 0.6797) \quad \dots \text{測量値} \dots\dots(5-1)$$

山本八幡宮の正面鳥居の高さは、枚岡神社・恩智神社より低く、弓削東神社・弓削神社より高い値である。決定係数のR<sup>2</sup>は0.6797であることが判明した。

河内国神社と山本八幡宮には、6基の鳥居について測量を行った。**図5-2**は鳥居の柱間距離と笠木高さとの関係図のデータである。X表示は笠木上で、▲表示は笠木下のデータである。河内国の神社と山本八幡宮の6基鳥居の柱間距離と笠木の高さの関係を究明するため考察方法として、次のような2変数(XとY)の曲線回帰方程式を与えられる。ここで、Xは柱間距離で、Yは笠木の高さ、決定係数はR<sup>2</sup>である。

$$Y(\text{笠木上の高さX}) = -0.092(\text{柱間距離})^2 - 2.139X - 1.416 \quad \dots\dots \text{決定係数}(R^2 = 0.985) \quad \dots \text{測量値} \dots\dots(4-2))$$

$$Y(\text{笠木下の高さ▲}) = 1.397(\text{柱間距離})^2 - 0.259 \quad \dots\dots \text{決定係数}(R^2 = 0.987) \quad \dots \text{測量値} \dots\dots(4-3)$$

笠木上と笠木下の決定係数は、0.985と0.987で、その差は0.002であることが判明した。

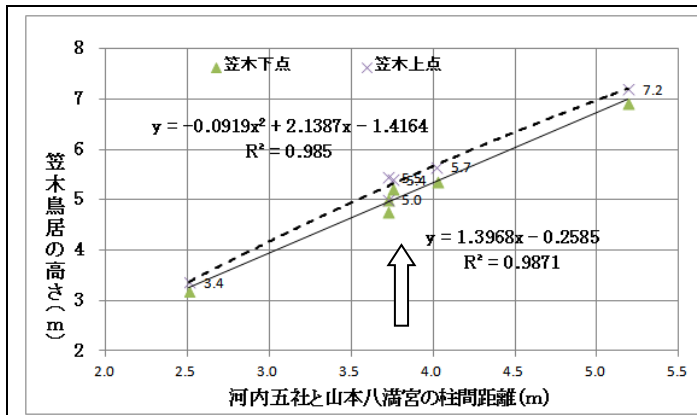


図 5-2.河内五大と山本八幡宮の柱間距離と笠木高さ(m)

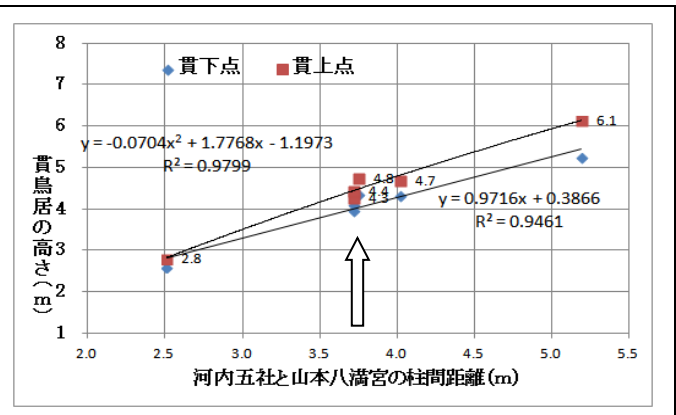


図 5-3. 河内五大と山本八幡宮の柱間距離と貫高さ(m)

河内国の神社と山本八幡宮には、6基の鳥居について測量を行った。図5-3は河内国の神社と山本八幡宮鳥居の柱間距離と貫高さとの関係図のデータである。■表示は貫上で、◆表示は貫下のデータである。6基鳥居の柱間距離と貫の高さの関係を究明するため考察方法として、次のような2変数(XとY)の曲線回帰方程式を与えられる。ここで、Xは柱間距離で、Yは貫の高さ、決定係数は $R^2$ である。

$$Y(\text{貫上の高さ} \blacksquare) = -0.092(\text{柱間距離})^2 + 2.139X - 1.416 \quad \dots\dots \text{決定係数}(R^2 = 0.985) \quad \dots \text{測量値} \dots\dots (5-4)$$

$$Y(\text{貫下の高さ} \blacklozenge) = 1.397(\text{柱間距離}) - 0.259 \quad \dots\dots \text{決定係数}(R^2 = 0.946) \quad \dots \text{測量値} \dots\dots (5-5)$$

貫上と貫下の決定係数は、共の0.985と0.946であることが判明した。

## 6. 山本八幡宮の石灯籠と数値解析

### 6-1. 山本八幡宮の石灯籠の写真

石灯籠の部分名称は、上からの部分名称として説明を行う。笠は火袋の屋根になる部分である。六角形や四角形が主流であるが雪見型の円形などもある。多角形の場合は宝珠の下部分から角部分に向かって線が伸び、突端にわらび手という装飾が施されることもある。火袋は、灯火が入る部分で灯籠の主役部分である。円筒状が一般的であるが、四角形、六角形、八角形のものも見られる。基礎は、最下部の足となる部分である。六角形や円形が主流である。雪見型灯籠などでは3本や4本の足で構成される。灯籠の代表的な種類は、春日型は、神社仏閣で多く見られるもので実用性も高い。竿が長く火袋が高い位置にあるのが特徴である。笠の丸い丸雪見と六角形の六角雪見がある。

写真6-1は神前型で享保18(1733)、拝殿前にある高さ2.35mである。写真6-2は神前型で享保18(1733)、拝殿前にある高さ2.35mである。写真6-3は神前型で寛政08(1796)、鳥居前2.54mである。写真6-4は神前型で安政05(1858)、鳥居前2.77mである。写真6-5は神前型で、鳥居横3.16mである。写真6-6は標準型で鳥居右1.47~1.55mの範囲である。最大値は3.16mで、平均値は2.07mで、最小値は1.47mである(表6-1)。





## 6-2.山本八幡宮の石灯籠の測量値



写真 6-6.鳥居の横

	灯籠型式	石燈籠の建立年代		場所	高さ
		享保18	1733		
1	神前型	享保18	1733	拜殿前	2.35
2	神前型	享保18	1733	拜殿前	2.35
3	神前型	寛政08	1796	鳥居前	2.54
4	神前型	安政05	1858	鳥居前	2.77
5	神前型			鳥居左	3.16
6	標準型	文政07	1824	鳥居右	1.47
7	標準型	文政07	1824	鳥居右	1.47
8	標準型			鳥居右	1.52
9	標準型			鳥居右	1.55
10	標準型			鳥居右	1.51
最大値			1858		3.16
平均値			1795		2.07
最小値			1733		1.47

表 6-1.八尾市、山本八幡宮の石灯籠の計測値

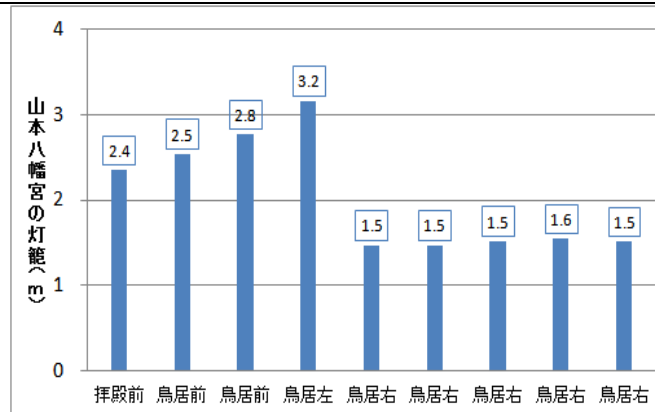


図 6-1.八尾市、山本八幡宮の石灯籠の位置順

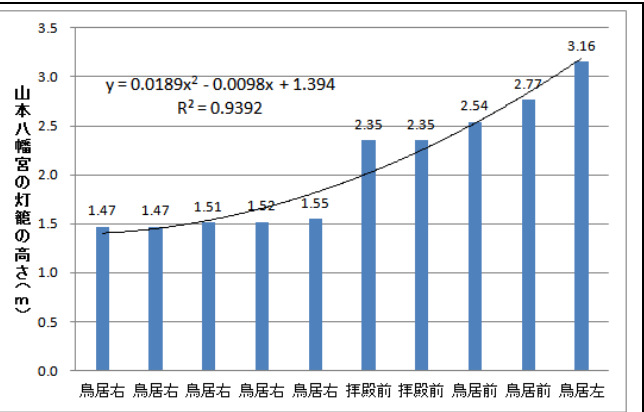


図 6-2.八尾市、山本八幡宮の石灯籠の高さ順

図 6-1 は、八尾市、山本八幡宮の石灯籠の高さ順である。図 6-2 は、山本八幡宮の石灯籠の高さ順の高さの関係を究明するため考察方法として、次のような 2 変数 (X と Y) の 2 次曲線回帰方程式を与えられる。ここで、X は灯籠の位置で、Y は灯籠の高さ、決定係数は  $R^2$  である。右の式は  $Y(\text{灯籠の高さ}) = 0.0189X^2 - 0.010X + 1.394$  決定係数 ( $R^2 = 0.939$ ) である。

## 7.おわりに

### 7-1.山本八幡宮の社殿建築

山本八幡宮の社殿建築は、八尾市、10 神社の社殿建築を比較した。その結果、次のように要約できる。山本八幡宮の高さ(4.58m)は、許麻神社(8.01m)と八尾神社(6.35m)と八尾天満宮(4.81m)等の8神社より低く、楠本神社木の本(4.23m)より高い値である。山本八幡宮の間口(9.61m)は、許麻神社(12.01m)・渋川神社(12.01m)・穴太神社(10.51m)等の8神社より低く、八尾天満宮(8.98m)・樟本神社木の本(6.04m)・樟本神社北木の本(8.91m)より広い値である。山本八幡宮の奥行き(4.97m)は、10 神社の中で最も狭い長い値である。

### 7-2.山本八幡宮の鳥居

河内国五神社とは、枚岡神社、恩智神社、弓削東神社、弓削神社および山本八幡宮である。ここで、各神社における正面鳥居の測量値について解析を行った。柱間距離では、最大値は枚岡神社 519m、平均値は 4.16m、最小値は弓削東神社と弓削神社 3.72m である。貫下の高さでは、最大値は枚岡神社 5.24m、平均値は 4.38m、最小値は弓削東神

社と弓削神社 3.96mである。貫上の高さでは、最大値は枚岡神社 6.14m、平均値は 4.85m、最小値は弓削東神社と弓削神社 4.28mである。笠木下の高さでは、最大値枚岡神社 6.93m、平均値は 5.46m、最小値は弓削東神社と弓削神社 4.77mである。笠木上の高さでは、最大値枚岡神社 7.21m、平均値は 5.72m、最小値は弓削東神社と弓削神社 5.01mである。反増し高さでは、最大値は枚岡神社 8.11m、平均値は 6.19m、最小値は弓削東神社と弓削神社 5.31mである。河内国五神社とは、枚岡神社、恩智神社、弓削東神社、弓削神社および山本八幡宮である。ここでは、各神社の正面鳥居の測量値である河内国五大神社と反増しとの関係を表示した。河内国五大神社と反増しの高さの関係を究明するため考察方法として、山本八幡宮の正面鳥居の高さは、枚岡神社・恩智神社より低く、弓削東神社・弓削神社より高い値である。

### 7-3.山本八幡宮の石灯籠

山本八幡宮の石灯籠測量値である。高さは 1.63～3.30mの範囲で、平均値は 2.14mである。灯籠型式としては、神前型・御神燈、神前型・常夜燈および神前型・獸燈の3タイプである。石灯籠の建立年代としては、昭和 58 (1983) 年～貞享 03 (1687) 年の年間である。八尾市、山本八幡宮の石灯籠の高さ順である。山本八幡宮の石灯籠の高さ順の高さの関係を究明するため考察方法として、八尾市、山本八幡宮の石灯籠の高さ順の傾向について、解明することができた。

### 7-4.山本八幡宮の経緯度

図 7-1 は八尾市、山本八幡宮を含む北緯のグラフである。北緯34度 36 分の神社名は①弓削神社西、②樟本神社、③樟本南、④弓削神社東、⑤恩智神社、⑥樟本北、⑦渋川神社と⑧由義神社である。すなわち、北緯が同じであることが見られた。さらに、北緯34度 37 分の神社名は、①山本八幡宮、②許麻神社、③八尾天満宮、④八尾神社と⑤である。

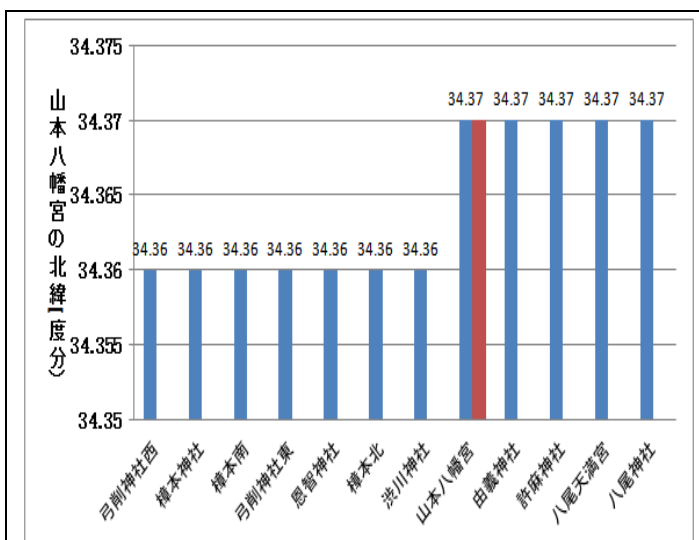


図 7-1.八尾市、山本八幡宮を含む北緯のグラフ

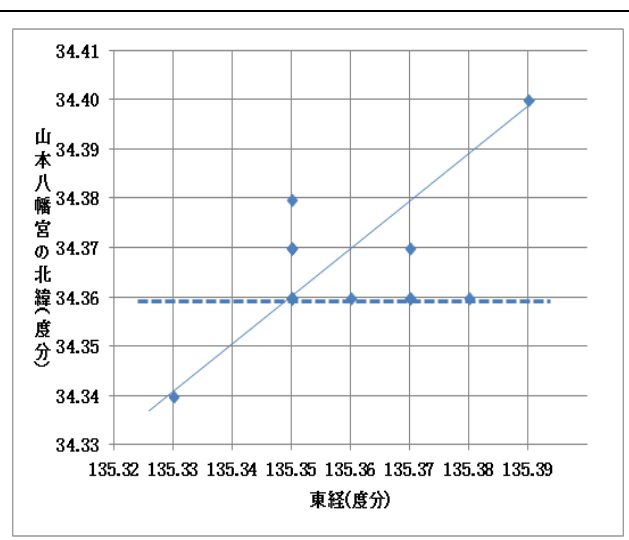
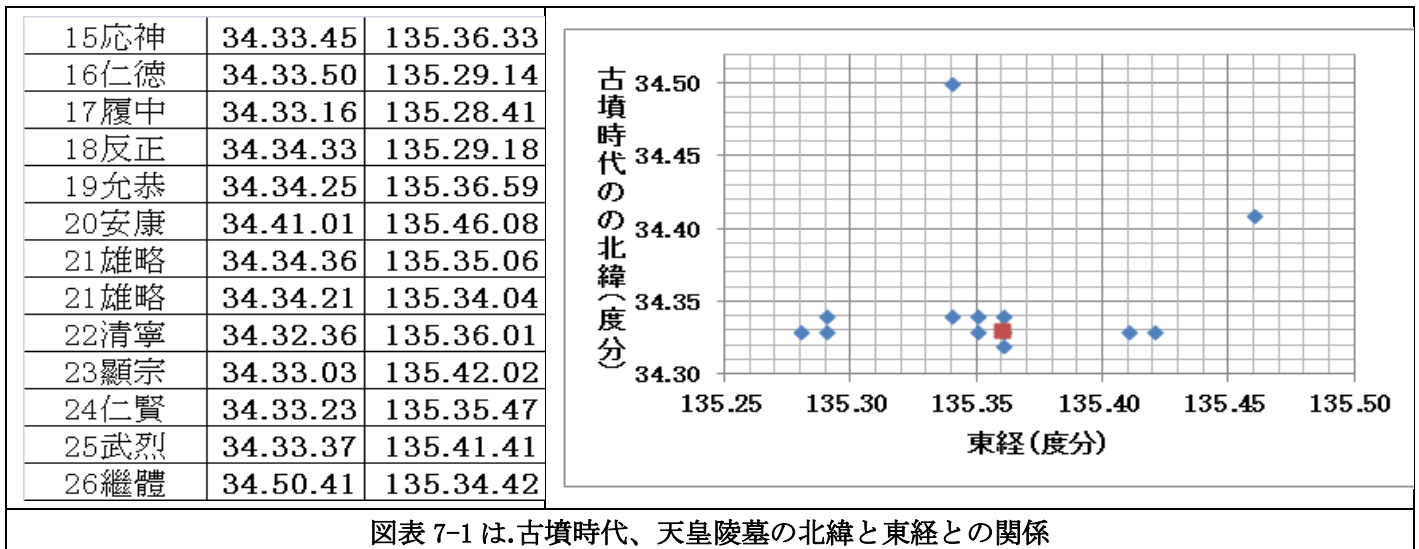


図 7-2.八尾市、山本八幡宮を含む北緯と東経

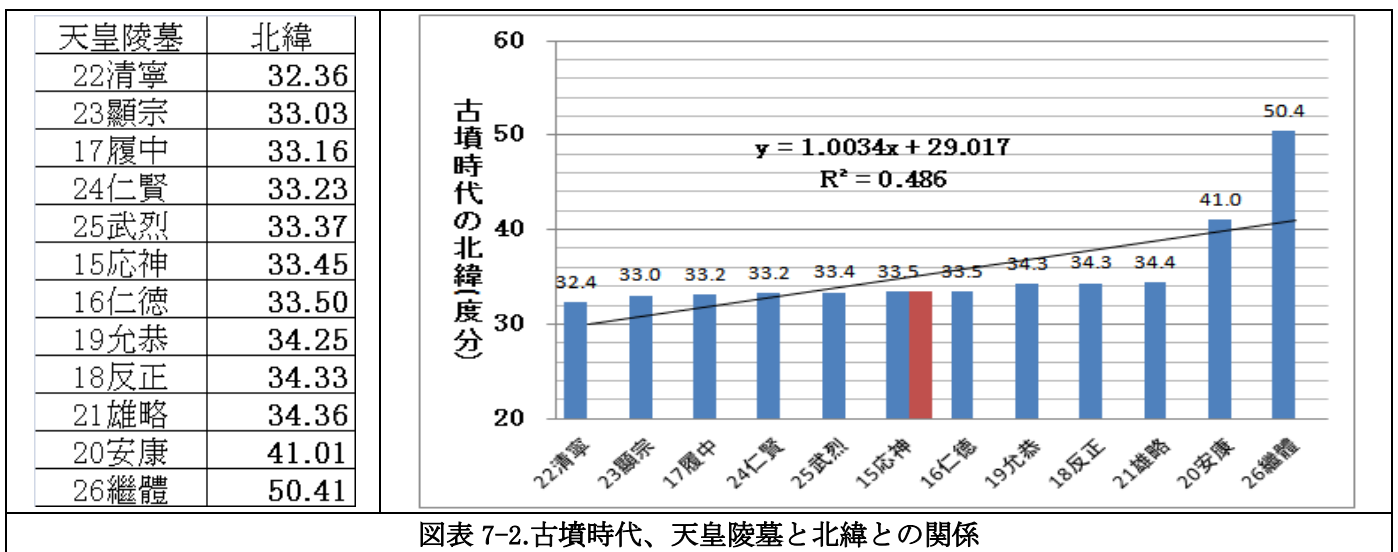
図 7-2 は八尾市、山本八幡宮を含む北緯と東経の関係である。東経 135 度 33 分と北緯34度 34 分の神社は柴籬神社であり、最南西端に鎮座している。である。東経 135 度 35 分は①八尾神社、②八尾天満宮、③樟本北神社、④樟本南神社、⑤樟本神社、⑥許麻神社、⑦渋川神社、⑧穴太神社であり、最西端に鎮座している。樟本北神社、樟本南神社、樟本神社および渋川神社は、それぞれ共通して東経 135 度 35 分と北緯34度 36 分である。弓削神社東と由義神社は、それぞれ東経 135 度 37 分と北緯34度 36 分である。八尾神社、八尾天満宮と許麻神社は、それぞれ東経 135 度 37 分と北緯34度 37 分である。山本八幡宮は、東経 135 度 37 分と北緯34度 37 分である。北緯34度 36 分と東経 135 度 35 分を交差地として、左右や上下に鎮座していることが確認された。さらに、東経 135 度 33 分の柴籬神社から交差地の神社から枚岡神社までは、東北から西南方向には一直線状にあることが観察された。

## 7-5.古墳時代の陵墓

### 7-5a. 古墳時代の陵墓の経緯度



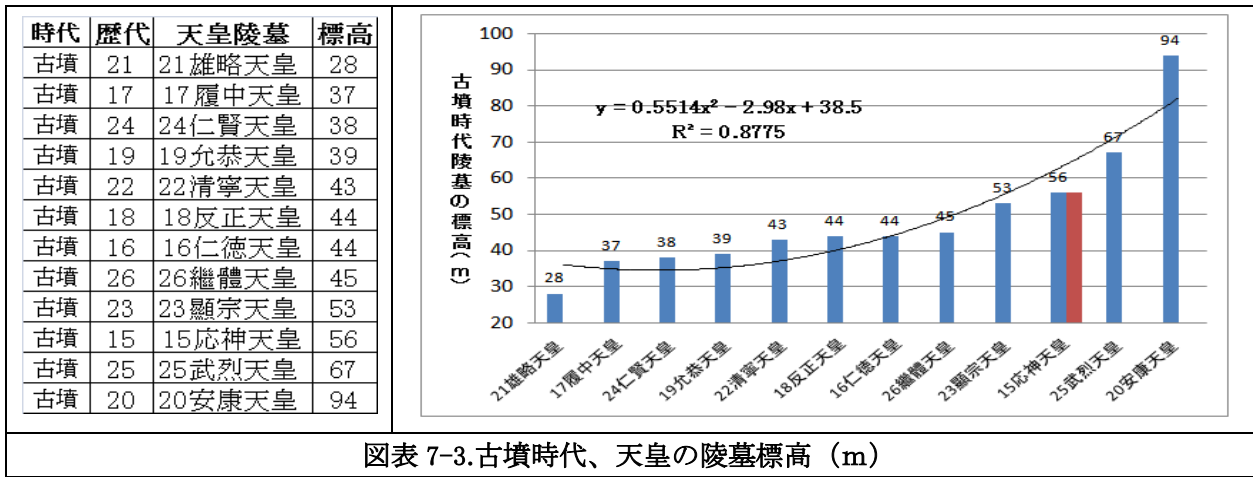
図表 7-1 は、古墳時代、天皇陵墓の北緯と東経との関係を表示した。北緯 34 度 33 分の 6 つの天皇陵墓は、16 応神、16 仁徳、17 履中、23 顯宗、24 仁賢および 25 武烈である。北緯 34 度 34 分の 3 つの天皇陵墓は、18 反正、19 允恭、21 雄略である。北緯の最大値は 35 度 50 分であり、最小値は 35 度 32 分である。古墳時代の第 22 代清寧天皇陵墓は北緯では最も小さい値である。17 履中の天皇陵墓は、東経 135 度 28 分では最も小さい値である。この平均値の上下に垂直線上に御陵が分布していることが、明確に判明できた。26 代継体天皇は離れている。20 代安康天皇陵墓は最東端である。



図表 7-2 は古墳時代、天皇陵墓と北緯との関係図である。左は歴代天皇順であり、右図は天皇と陵墓の北緯順である。最南端は、22 清寧は、32 度 36 分である。それから北緯へは、23 顯宗 33 度 03 分、17 履中 33 度 16 分、24 仁賢 33 度 23 分、25 武烈 33 度 37 分、15 応神 33 度 45 分、16 仁徳 33 度 50 分、19 允恭 34 度 25 分、18 反正 34 度 33 分、21 雄略 34 度 36 分、20 安康 41 度 01 分である。さらに、最北端は 26 繼體 50 度 41 分である。

天皇の陵墓高を究明するためには、考察方法として、次のような 2 変数 (X と Y) の曲線回帰方程式を与えられる。ここで、X は天皇陵墓で、Y は北緯、決定係数は  $R^2$  である。2 変数 (X と Y) の直線回帰方程式を与えられる。すなわち、 $y = 1.003X + 29.017 \dots (R^2 = 0.486)$  のように解析できる。

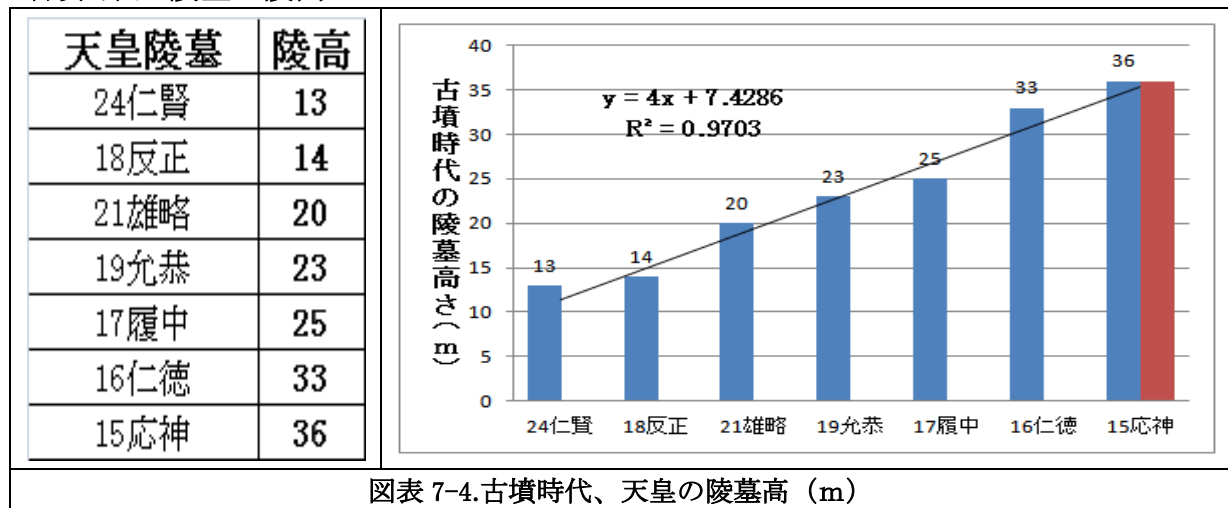
### 7-5b.古墳時代の陵墓の標高



図表 7-3 は、古墳時代、天皇陵墓の標高である。標高の順にすると、21 代雄略天皇の陵墓標高 28m、17 代履中の陵墓標高 37m、24 代仁賢の陵墓標高 38m、19 代允恭の陵墓標高 39m、22 代清寧の陵墓標高 43m、16 代仁徳の陵墓標高 44m、18 代反正の陵墓標高 44m、26 代繼體の陵墓標高 45m、23 代顯宗の陵墓標高 53m、15 代応神の陵墓標高 56m、25 代武烈の陵墓標高 67mおよび 20 代安康の陵墓標高 94mである。

天皇の陵墓高を究明するためには、考察方法として、次のような 2 変数(XとY)の曲線回帰方程式を与えられる。ここで、Xは天皇陵墓で、Yは標高で、決定係数はR<sup>2</sup>である。2 変数(XとY)の曲線回帰方程式を与えられる(図表 7-3 の右図)。すなわち、 $y=0.551X^2 - 2.98X + 38.5 \dots (R^2=0.878)$ のように解析できる。

### 7-5c.古墳時代の陵墓の陵高



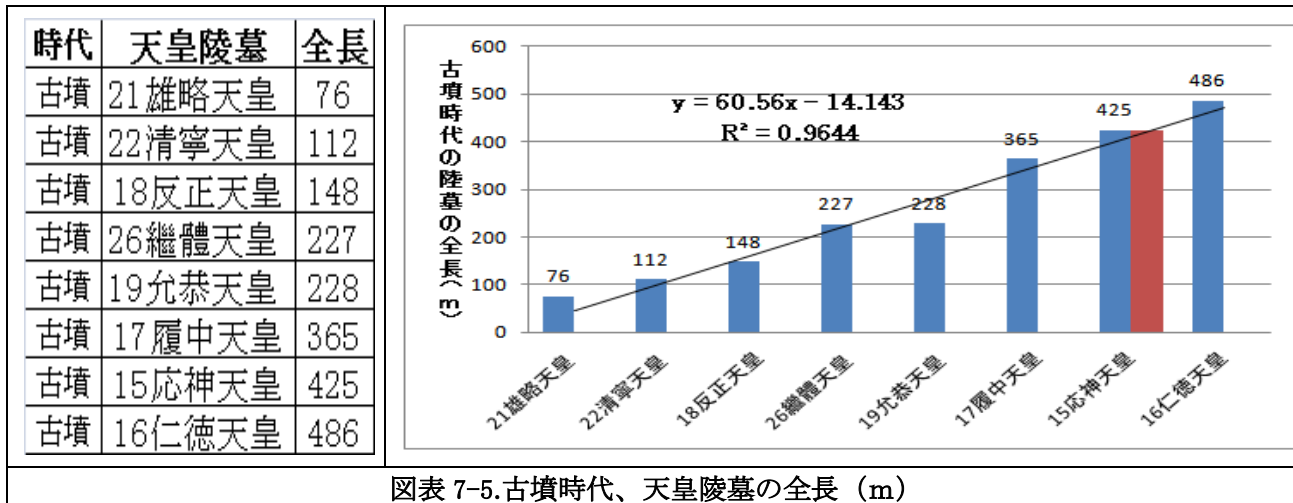
天皇の陵墓高は、13m-36mである。低陵高から記述すれば 24 代仁賢天皇 13m、18 代反正天皇 14m、21 代雄略天皇 20m、19 代允恭天皇 23m、17 代履中天皇 25m、16 代仁徳天皇 33mおよび 15 代応神天皇 36mである。

天皇の陵墓高を究明するためには、考察方法として、次のような 2 変数(XとY)の直線回帰方程式を与えられる。ここで、Xは天皇陵墓で、Yは陵墓高で、決定係数はR<sup>2</sup>である。2 変数(XとY)の直線回帰方程式を与えられる(図表 7-4 の右図)。すなわち、 $y=4X + 7.429 \dots (R^2=0.970)$ のように解析できる。

### 7-5d.古墳時代の陵墓の全長

図表 7-5 は奈良時代の天皇陵墓全長である。天皇陵墓全長の最短は 24 代仁賢では 3mであり、漸次に 18 代反正では 14m、21 代雄略では 20m、19 代允恭では 23m、17 代履中では 25mと 16 代仁徳では 33m大きい長さである。天皇陵墓全長の最長は 15 代応神では 36 である。

天皇の陵墓高を究明するためには、考察方法として、次のような 2 変数(XとY)の直線回帰方程式を与えられる。ここで、Xは天皇陵墓で、Yは陵墓の全長で、決定係数はR<sup>2</sup>である。すなわち、 $y=60.56X - 14.14 \dots (R^2=0.964)$ のように解析できる。



## 謝 辞

論文作成時には、山本八幡宮の新海(にいみ)宮司から助言を頂きました。本論文作成にあたっては、神社の測量時には、地域住民の原田幸作氏にお世話になりました。情報処理には、NPO 法人洞窟環境 NET 学会の肥塚義明事務局長に厚く御礼申し上げます。

(2015 年 12 月 1 日受稿、2016 年 1 月 25 日掲載決定)

## 参 考 文 献

- 01) 西辻豊:『八尾の道標』、八尾市郷土文化研究会、1981 年。
- 02) 八尾市立歴史民俗資料館:『八尾の歴史と文化財』、八尾市立歴史民俗資料館、1987 年。
- 03) 八尾市役所:『八尾市史(前近代)本文編』、八尾市史編集委員会、1988 年。
- 04) 谷野浩:『八尾の石塔』、八尾市郷土文化研究会、1988 年。
- 05) 村川行弘・小林 博:『河内地域史-総論編-』、大阪経済法科大学出版部、1992 年。
- 06) 八尾らしいすまいづくり編集委員会:『八尾らしいすまいづくり』、八尾市、1998 年。
- 07) 根岸榮隆:『鳥居の研究』、第一書房、2007 年。
- 08) やお暦民友の石造物部会:『八尾の灯籠』、やお暦民友の石造物部会、2008 年。
- 09) 井上順孝:『図解雑学!神道』、ナツメ 第五刷、2008 年。
- 10) 渋谷伸博:『日本の神社』、日本文芸社、2008 年。
- 11) 棚橋利光:『八尾の史跡(新訂版)』、NPO 法人やお文化協会、2011 年。
- 12) 古谷昭雄・沢 勲・山根真人・中岡愛彦:「大阪府東大阪市、河内国一之宮の太古聖域、枚岡神社の由来と人間力」、洞窟環境 NET 学会紀要5号、2014 年。
- 13) 沢 勲・小山博・森下泰行・呉紅敏:「大阪府八尾市、河内国二之宮の聖域と洞窟、恩智神社の由来と鳥居」、洞窟環境 NET 学会紀要5号、2014 年。
- 14) 沢 勲・小山博・中尾達夫・上野裕:「大阪府八尾市、河内国三之宮の聖域、弓削神社(東)の由来と鳥居」、洞窟環境 NET 学会紀要5号、2014 年。
- 15) 沢 勲・小山博・中尾達夫・上野 裕:「大阪府八尾市、河内国三之宮の聖域、弓削神社(東)の由来と鳥居」、洞窟環境 NET 学会紀要5号、2014 年。

- ①山本八幡宮 <http://www.5.ocn.ne.jp/>
- ②山本八幡宮 <http://www12.plala.or.jp/HOUJI/jinja-1/>
- ③山本八幡宮 <http://www.501-600.wakkan.jp/>
- ④山本八幡宮 <http://www.barakan1.exblog.jp/>

⑤山本八幡宮 <http://www.bell.jp/pancho/>

⑦山本八幡宮 <http://www.norichan.jp/jinja/kenkou/yugi.htm>

<http://www.xhotzone.net/vh/27a/vh08091502.php>

## 謝 辞

論文作成時には、山本八幡宮の新海(にいみ)宮司から助言を頂きました。本論文作成にあたっては、神社の測量時には、地域住民の原田幸作氏にお世話になりました。情報処理には、NPO 法人洞窟環境 NET 学会の肥塚義明事務局長に厚く御礼申し上げます。

(2015 年 12 月 1 日受稿、2016 年 1 月 25 日掲載決定)

### 別表 1.大阪府八尾市、山本八幡宮の年表

和 歴	西 暦	内 容
宝永元	1704	河内山本の発生は大和川付替開始。山本とは、山中と本山の両氏の頭文字。
宝永 02	1705	山中庄兵衛正永(旧和泉国泉州の箱作村)氏と、大阪の商人・本山弥右衛門重英(加賀屋)氏の兩人が請負って、旧河川敷の幅 200m、長さ約 3.5kmの新田完成。
宝永 05	1708	山本地検の際に正式に確定。
享保元	1716	山本八幡神社創建。宮鎮守の神として男山八幡宮から分霊が現在地に勧請され鎮座。
享保 08	1723	本山家(加賀屋)は住友家(泉屋)から山本地を抵当に銀 300 貫(全 5000 面)融資を受け。
享保 09	1724	「大坂大火」、本山家(加賀屋)が被災の因で、借入金返済できず。
享保 13	1728	正月、本山家(加賀屋)が住友吉左衛門(泉屋)の所有となった。
享保 20	1735	中野(西山本)の飲料水源から住友の山本新田支配人と水争い。翌年解決。
文化 10	1813	行政支配・大坂城代・小田原藩主・大久保忠真領。(明治迄)。
天保 13	1842	木綿栽培盛ん、山本新田木綿屋伝兵衛、八幡社に百度石を寄進。
明治元	1868	明治維新、行政支配、大阪鎮台司農局(6 月)、大阪南司農局(7 月)。
明治 02	1869	明治維新、行政支配、河内県(1 月)、堺県(8 月)。
明治 29	1896	山本にマッチ工場設立。
明治 36	1903	町制実施、山本新田を山本と名称変更。
大正 02	1913	山本に化粧ブラシ製造開始。
大正 13	1924	現近鉄が、山本での土地買収に小作争議。
大正 14	1925	現近鉄は、八尾駅から恩智駅へ路線延長、「山本では停留場」設置。
昭和 02	1927	住友本社・近鉄は山本住宅開発(区画整理)に着手)、府立八尾高等女学校と改称。
昭和 04	1929	大軌住宅分譲を開始。
昭和 09	1934	住友住宅分譲を開始。宅地は それぞれ一区画当り 100 坪(330 m <sup>2</sup> )以上の広さを確保し、河内の水田地帯に忽然(コッセン)とモダンな高級住宅が建ちはじめた。また、府立八尾高等女学校((山本高校)も誘致。
昭和 13	1938	住友野球場完成。
昭和 15	1940	1940 年まで住友家が地主として約 200 余年間「山本」を所有した。住友住宅分譲を終了。住友住宅は東南部分を山本八幡神社に寄贈。山本八幡神社社務所建設(境内の池埋め立て跡)。八幡社では 玉串川沿いにあった池を埋め立てた。
昭和 16	1941	「大軌山本」を「河内山本駅」と変更。大東亜(太平洋)戦争開始。
昭和 19	1944	近畿日本鉄道(近鉄)と改称。

昭和31	1956	世情の落ち着きと共に損壊(ソウカイ)著しい八幡社の新築が行われ、ここに「山本八幡宮」として生れ代わり、新海(ニイ)氏の分家が専任の宮司として神事を奉斎することになった。
平成 05	1993	社務所・参集殿・太鼓蔵の新設を含む境内の幅な改修工事が着手され現在の姿に生れ変わったのである。
平成 08	1996	大阪経済法科大学スクールバス発着所、山本町 4 丁目から 3 丁目へ移転。
平成 09	1997	山本八幡宮改修工事完成。